

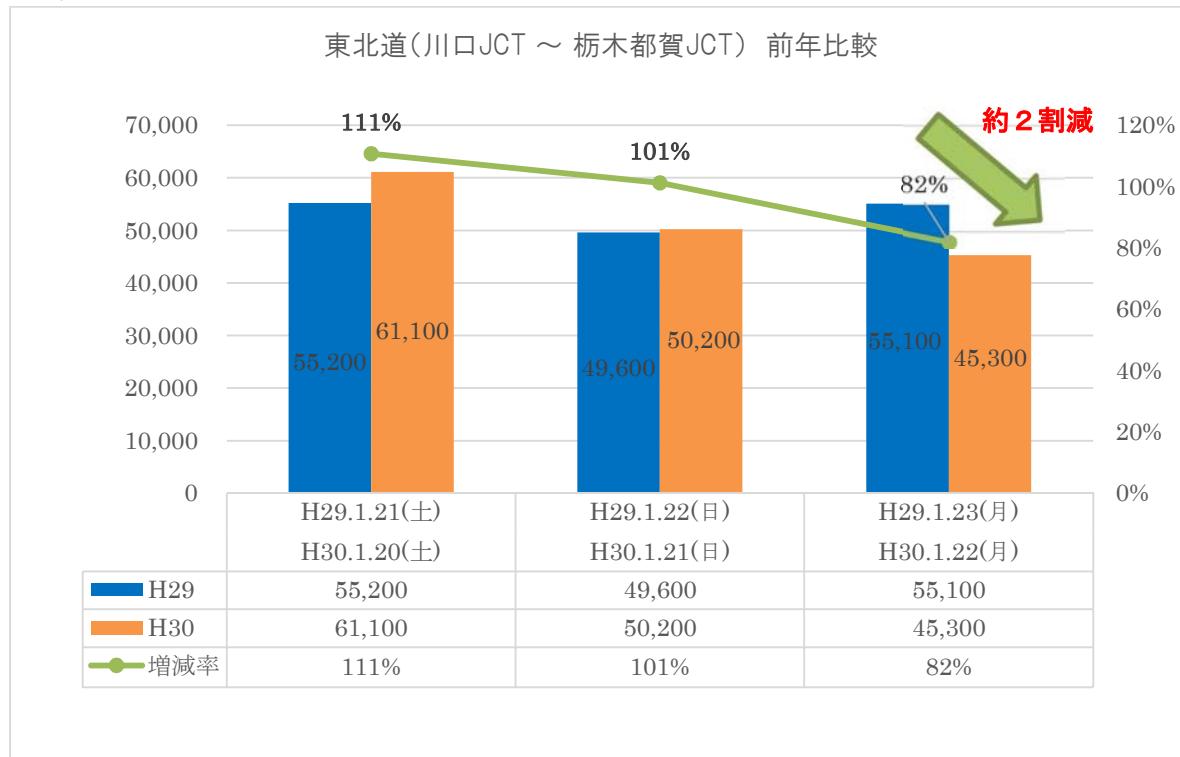
降雪による高速道路通行止め予想区間(2月1日夜間～2日)

(1月31日 10:00 時点)

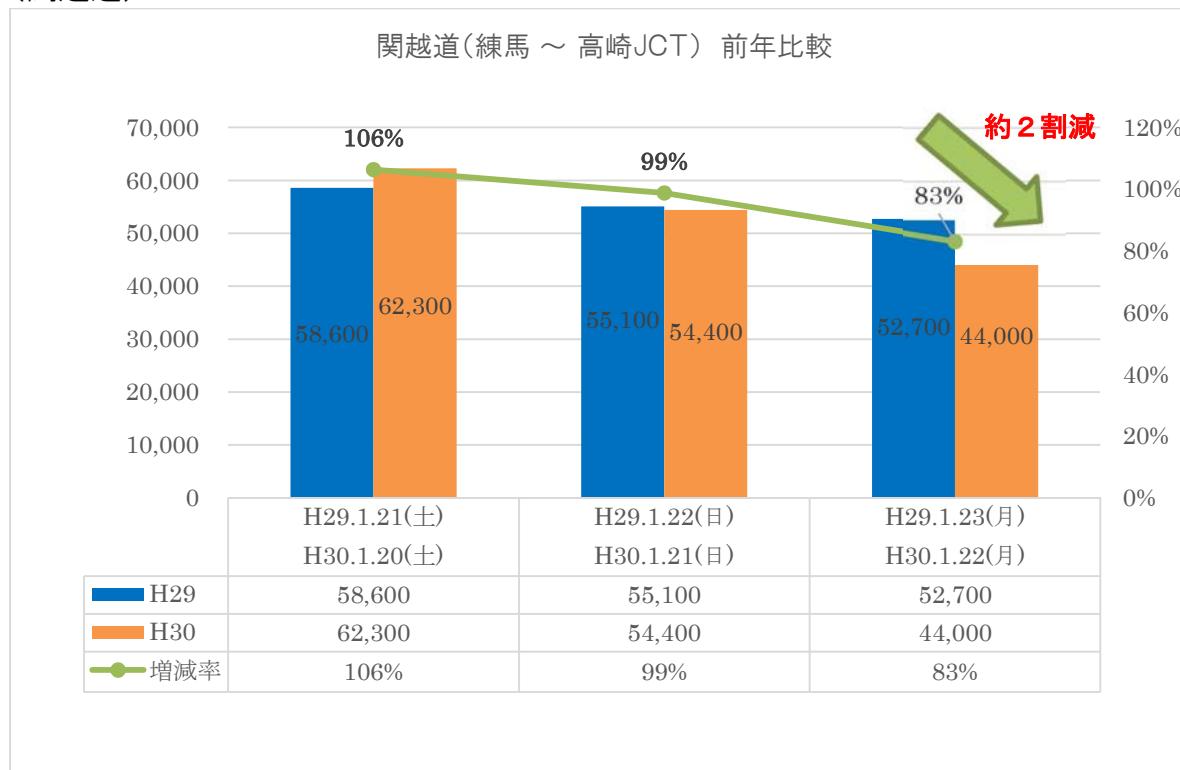
道路名	区間
E4 東北自動車道	川口JCT～佐野藤岡IC
E17 関越自動車道	練馬IC～本庄児玉IC
E6 常磐自動車道	三郷JCT～いわき勿来IC
E51 東関東自動車道	全線(湾岸市川IC～潮来IC、茨城町JCT～茨城空港北IC)
E65 新空港自動車道	全線(成田IC～新空港IC)
E14 京葉道路	全線(市川IC～蘇我IC)
C3 東京外環自動車道	全線(大泉IC～三郷南IC)
C4 首都圏中央連絡自動車道	あきる野IC～大栄JCT、松尾横芝IC～木更津JCT
E50 北関東自動車道	栃木都賀JCT～水戸南IC
E50 東水戸道路	全線(水戸南IC～ひたちなかIC)
E14 館山自動車道	全線(蘇我IC～富津竹岡IC、木更津南JCT～木更津南IC)
E14 富津館山道路	全線(富津竹岡IC～富浦IC)
CA 東京湾アクアライン	全線(川崎浮島JCT～木更津金田IC)
CA 東京湾アクアライン連絡道	全線(木更津金田IC～木更津JCT)
E83 第三京浜道路	全線(玉川IIIIC～保土ヶ谷IC)
E83 横浜新道	全線(保土ヶ谷IC～戸塚、新保土ヶ谷IC～狩場IC)
E16 横浜横須賀道路	全線(狩場IC～馬堀海岸IC、釜利谷JCT～並木IC)

【データ】

■1月20日(土)～22日(月)の首都圏代表路線の日平均交通量 前年同時期比較
(0時～17時(通行止め時間帯除く))
(東北道)



(関越道)



※平均交通量(速報値)

交通量単位:台/0時～17時台

～雪道ドライブのポイント～

* 雪道には冬用タイヤを！ チェーンの携行も忘れずに！

基本的に雪道では、スタッドレスタイヤ等の冬用タイヤか普通タイヤにタイヤチェーンを装着した状態での走行となります。ただし、冬用タイヤでも天候や路面状況によっては走行が困難な場合がありますので、タイヤチェーンも携行してください。

* 時間にゆとりのあるドライブ計画を！

降雪状況によっては、速度規制や通行止めが行われる場合もありますので、ゆとりのあるドライブ計画を立ててください。

* 雪道での“急”は禁物です！

急ハンドル・急ブレーキなどの“急”的操作は、滑りやすい雪道ではスリップ事故に繋がりやすいので厳禁です。



* 車間距離を十分にとり、スピードは控えめに！

雪道では制動距離が長くなり、乾燥・湿潤路面よりも止まりにくいため、前車との車間距離を十分にとり、スピードは控えめにしておくことが大切です。

* 雪落としはこまめに！

車の屋根に雪が積もったまま走行すると、雪が塊となって落下する場合があり、後続車に対して非常に危険です。走行前には必ず屋根の雪を落とすようお願いいたします。

雪道には冬用タイヤを! チェーンの携行も忘れずに

全国にネットワークが拡がる高速道路。冬になると出発地は晴れても目的地や通過地点で雪が降っていることもあります。冬の高速道路では、スタッドレスタイヤなどの冬用タイヤの装着とタイヤチェーンの携行をお願いします。

また、これらの装備が万全であっても絶対に滑らないという証拠はありませんので、スピードを控えるなど一層の安全運転を心掛けましょう。

●スタッドレスタイヤ

スパイクタイヤと異なりスタッド(金属びょう)のないタイヤ。低温でもしなやかさを失わない特殊配合ゴムを採用、溝の形、切り込み(サイピング)を改良し、従来のスノータイヤよりも制動性能が大幅に向上しています。



●スノータイヤ

雪や凍結路面での制動を良くするため、普通のタイヤより表面に大きな凹凸をつけ、広くて深い溝で確実に雪をつかめる(グリップできる)ようにしたタイヤです。



●タイヤチェーン

スタッドレスなどの冬用タイヤに比べ、最大の制動効果を上げることができます。冬用タイヤといえども、決して万能ではありません。降雪の状況によって、全車両チェーン装着規制が実施される場合もあります。タイヤに頼らず必ずタイヤチェーンを用意してください。



※冬用タイヤ(スタッドレスタイヤ、スノータイヤ)の側面(サイドウォール)には、STUDLESS、SNOW又はM+S、M.S、M&S、M/Sの文字があります。

●滑りやすさはこんなに違う●

摩擦係数

0.7~0.9乾燥路

0.2~0.4圧雪路 3.2倍

0.1~0.2凍結路 5.4倍

0.1未満凍結路 (つるつる凍結路面) 8.0倍

注)摩擦係数とは、タイヤと路面間の摩擦力の大きさを表す指標をいい、指標が小さいほどすべりやすいことを意味しています。

資料:(一社)日本自動車タイヤ協会

雪用心 冬装備を細心の注意で安全運転 パンフレットから抜粋 (NEXCO東・中・西作成)

雪氷作業とは

【凍結防止作業】

路面の凍結が予想される場合に、凍結防止のため、事前に凍結防止剤を散布します。凍結防止剤として用いているのは塩化ナトリウムで、散布することによって水の氷点を低下させ、凍結を防ぐことを目的としています。

この作業は、車の走行帯が濡れていない場合でも、降雨や降雪が予測される場合、また路肩に除雪された雪が日中の気温上昇で溶けだし、気温低下に伴って再び凍結してしまうことが予測される場合などにも行います。作業は、確実な作業と交通の安全を確保するため、通常、時速50キロメートル程度で行います。

凍結防止作業

路面凍結が予測される場合に、凍結防止のため事前に凍結防止剤（塩化ナトリウム）を散布します。作業車の走行による速度低下にご理解・ご協力をお願いします。



【除雪作業】

降雪があり、路面に積雪が生じた際に行われる作業です。作業は、2～3台の除雪トラックがチームとなり、追越車線の雪を走行車線に、走行車線の雪を路肩に排除する方法で行います。通常、時速20～40キロメートルで作業を行います。

また、除雪を行った後、路面に残った雪が凍結してしまうのを防ぐため、凍結防止作業を合わせて行う場合があります。

除雪作業

降雪により路面に積雪した場合、除雪車により編成を組み、時速50km以下で除雪を行います。作業中は速度低下により最後尾では渋滞が発生しますのでご理解・ご協力をお願いします。

